

応神天皇陵

この前方後円墳は、応神天皇の眠る場所だと言われている。古市地域で最大であり、5世紀前半に築造されたと考えられている。古代の記録によると、応神天皇は第15代天皇で、3世紀後半の約50年間統治していた。応神天皇は新しい朝鮮の織物技術と金属加工、陶器、漢字を日本にもたらした功績がある。

応神天皇陵の墳長は日本で2位で、面積は29ヘクタール弱だ。高さは12階建てのビルと同程度の約36メートルだ。元々は3段築成であり、当時は2万個の埴輪と呼ばれる素焼きの焼き物が縁どっていた。

古墳は宮内庁が管理しており、天皇に敬意を払って墓の内部を開いていない。つまり古墳内の調査が行われていないため、誰の墓であったのかは、はっきりと特定されていない。誰であっても立ち入ることを禁止しているが、堀の北側に拝礼所がある。西側に沿って以前外壕だった部分は、現在はイチジクの木やコスモス畑で覆われており、散策するのに気持ちのいい場所だ。